



鳥取こども学園 学園だより

第 54 号
2023年12月1日

〇発行
社会福祉法人
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地
電話 (0857) 22-4206
<http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>

題字 尾崎悌之助

十字架のキリストと出会い、 新しく神の子として創造される恵み

社会福祉法人 鳥取こども学園

理事長兼園長 藤野 謙 一



メリークリスマス！クリスマスはイエス・キリストの誕生を祝福する日です。

2023年9月10日に社会福祉法人鳥取こども学園の会長、藤野興一が天国に召されました。キリスト教では、「死」は天国に凱旋する祝福です。人間は、祝福されて生まれ、祝福されて死んでいくのです。会長の生前中は、皆さまより格別のご厚情を賜りましたことを、会長に代わり厚く御礼申し上げます。

会長は、生まれも育ちも鳥取こども学園です。大学時代は学生運動、その後、横浜市寿町のドヤ街（日雇い労働者が多く住む街）で炊き出し・夜間見回り等をしながら労働運動を展開し、鳥取こども学園に奉職しました。胃癌で胃を全摘し、難病指定の類天疱瘡になりながらも人間の尊厳のために闘い続けてきましたが、体力が落ちて、ドヤ街でもらった結核菌が再発しました。結核菌は現代医学では治るとされていますが、薬投与の際、パラドックス結核免疫再構成炎症性症候群（薬投与により死んだ結核菌を間違えて攻撃する現象）という珍しいことが起こり、体力をさらに奪われ、高度な栄養不良状態となりました。肺結核による結核性胸膜炎となり、自身のあらゆる器官を動員して生きるための努力

をしましたが、最後は静かに息をひきとりました。人間の尊厳のために闘ったドヤ街で結核菌をもらい、会長が好きだった言葉「パラドックス」（ものごとはすべてパラドックスなんや」とよく言っていました）で最後を迎えました。

振り返ってみると、会長は一貫してキリスト者でした。「一人ひとりを大切にする」という愛に生きました。鳥取こども学園では毎週日曜日に夕礼拝があり、会長が子どもたちにお話をしていました。そのときに、毎回のように言っていた言葉が二つあります。一つは「自分をだいいじに 他の人もだいいじに」です。もう一つは「見えるものより、見えないものをだいいじに」です。前夜式と葬儀は勿論のこと、その前後も途切れなく全国から学園の出身者が続々と帰ってきて涙を流していました。また、日本だけでなく世界で活躍する出身者たちも鳥取こども学園そのものです。みんな一人ひとりが「人を思いやる温かい心」を持っていることは学園の誇りです。葬儀前日の夜、私一人で会長の顔を見ながら、浮かんできたことをお話します。最初に浮かんできたのは「人間はみんな寂しいもん

なんや」という言葉です。学園ではクリスマス祝会で職員劇があり、会長はよく一升瓶を持った酔っ払い役でこの言葉を叫んでいました。次に浮かんできたのは、子どものことで何か問題が起きたときに小さな声でボソッと言う言葉「かわいそうやないか」です。私は「かわいそう」という言葉は上から目線で使わない言葉ですが、会長が言うとは別の言葉、つまり、最後まで寄り添う言葉に聞こえていました。最後に、どうしても浮かんでくるのが多くの方々とお酒を飲み交わすときに歌っていた唄です。鳥取県児童養護施設協議会指導員会の歌と言っていた「虫けらの唄（バーブ佐竹）」、「真田隊軍歌（ジュリー・藤尾）」、「アバンティポボロ（イタリア国民闘争歌）」、「ワルシャワ労働歌」（天安門広場、ポーランドのウルチャック先生の銅像前、トロントの路上電車内でも歌っていました）です。紙面に限りがあるので、歌詞はネットで検索してみてください。

会長は社会の偏見と闘い、人間の尊厳のために闘って、闘って、闘い抜いた人生でした。まだまだやり残したことはあったと思いますが、しかし、その魂は、残された我々の中に脈々と流れ、永遠の命として生き続けていくと信じています。ユダヤ人のパウロは、十字架のキリストと出会い、古い自分が十字架で死に、新しく神の子として創造される恵みを受けました。つまり、「新しく創造されること」となりました。新しく創造されていく鳥取こども学園を今後とも引き続きご支援くださるようお願いいたします。

シャローム

児童養護施設

鳥取子ども学園

とある2人の受験生

子どもの家 あかり

児童指導員 佐藤 瑞基

学園職員として6年目の私は今、初めて受験生(中3)の生活に関わっています。チクタク。チクタク。チクタク…。受験までのカウントダウンの音は、日に日に大きく聞こえてきます。そんな私の焦りとは反対に、のらりくらりと我が道を行くその子。「大丈夫か?」(笑)「とつい言ってしまうですが、いつも「大丈夫(笑)」との返事。分かち合える日は来ないのかもしれませんが(笑)

私が受験生の時はどうだったのだろうか?と、ふと思い返してみることがよくあります。私は賢くなかったので、1日10時間の勉強をし、とにかく努力でカバーしてきた、そんな人間でした。模擬テストで結果に繋がったり、繋がらなかったり。初めての受験に、不安な日々

を送っていたのを思い出します。そんな私を大きく支えてくれたのは、『母』でした。「するべき努力をしてきたのなら、最後は神頼みしかない」と言い、受験シーズンに発売されるお菓子『ウカール』『キットカット』を大量に買い込み、仏壇に飾っていました。日に日に仏壇がお菓子で埋め尽くされ、受験日が近づくにつれ、晩御飯の『カツ丼』率は高くなるばかり…。苦笑いの毎日でした。ただ、当時言葉には出しませんでした。母のその気持ちは、とっても嬉しかったのです。受験に合格した時に喜ぶ母の顔は、今でも忘れません。

その中3の子にとって、今の私はどう映っているのでしょうか?コツコツ努力派の私と、のらりくらり派のその子。タイプが正反対なので分かち合えないことも多いのですが、最近、受験合格に向けて焦るよりも、とにかく変わらない日常を大切にすることの方が大事なのではないか、と思うようになりました。受験期の母の記憶では、合格祈願のおやつが増える、カツ丼率が高くなるなどの変化がありました。それ以外は、いつもの日常だったなと思います。「おはよう」「お

やすみ」「いつてらっしゃい」「おかえり」。毎日の当たり前がすっかりそこにある安心感は、気づかないうちに、私の不安を和らげていたのだろうと、今になって気づき始めました。その中3の子は、のらりくらりしてはいますが、不安が0というわけではないだろうと思います。勉強のサポートをするだけではなく、いつも通りの日常を、子どもたちと一緒に創っていったらなと思っています。いつも通りの日常…。そう、私たちは今日も言うのです。「大丈夫か?」(笑)「大丈夫(笑)」。そろそろ、『ウカール』を買いに行こうかな(笑)

会長が教科書、子どもたちは先生

ふじホーム

ホーム長 小谷 祐司

藤野会長の言葉が、ホームの生活の中で鼓動を刻み続けています。

「見えるものより見えないものを大切に」…誰にでも、エネルギーに満ち溢れ好調な時期と、そうでない悩み苦しい時期が周期的に訪れます。子どもがその良

くない周期に陥ってしまう時期に、目に見える問題点について大人が何度も指摘をしてしまうことがあります。そういう時は『大人から怒られる↓やる気がなくなる↓また怒られる』と、なかなか負の連鎖から抜け出せないものです。しかし本当の問題点はその指摘とは別の見えな所にあつて、そこにアクションを行えば意外とあっけなく解決することもあります。例えば、毎日集中力が持続できないことで悩んでいたけど、寝る前に大人とハグをしてしっかりと睡眠時間を取ると、不思議と日中の集中力が持つようになった…そういうことかなと解釈しています。「自分をおごり高ぶらない」、自分を過信せず、目線は偏らず、解決の真実を見つける時は、その子どもが可愛いと思ったり、何とか頑張つて欲しい、毎日を楽しんで欲しいという願い、結局『愛』を持つている時なのだたと痛感しています。

また、「相手も自分も傷つけない」という言葉も、最近よく子どもへ伝えている気がしています。何事にも失敗はつきものだし、時には誰かに迷惑をかけてしまつのも仕方のないこと。それはいつか

ジャンプアップするための、大切な経験値になる。ただし、傷つけるといふ行為は心にも身体にもずっと傷が残ってしまうもの、自分にも相手にも蔑みからは何も得られない。「人の尊厳を大切に」「色々な性格があつて、考え方の違いから衝突することも当然ある。でもこれらは全て個性というカラー、神様からの意図があつて与えられたギフト。見た目や他者の評価に囚われず、色々な人と一緒に過ごすのは楽しいよな！」と笑い合いたいのが理想です。

などなど、意味を考えていけばとても深いのですが、これら一言には会長が言いたかったながい話が、ぎゅっと凝縮されていると思っています。

「これまでのカギカッコ内の言葉は、『挨拶』という会長のお話を聞く集いの中で全て出たものです。年齢の幼い子どもでも、何気に耳に残っている言葉です。子どもにはよく「興一じっちゃんが言っていたでしょー」と、言葉を拝借して大切な話をするのが出来ますし、短い言葉なのに説得力が抜群にあります。子どもに話すついでに、実は大人も会長の教えをここで再確認しているのです。

さて、まるで色々経験積み重ねて悟ったような言い回しをしています。これらは全て受け売りで、本当は『会長が教科書、子どもたちはそれを教えてくれる先生』だったりします。ここまで僕を育ててくれてありがとうーそのお礼に今度お出かけて、子どもたちにアイスでもごちそうすることにします。

児童心理治療施設

鳥取こども学園希望館

偲んで前へ



館長

水野 壮一

藤野興一会長が天に召された。ただひたすらに悲しいというのが率直な思いだ。私を導き、鍛えて下さった真の恩人である。温かく褒めて認められると同時に、たくさん叱られた。だから、悲しくて悲しくて、「もう会えないのか」「まだまだ話したいことがあったのに」と、召

天からひと月近く経った今でも時折に涙がこぼれる。

また、来年迎える希望館の30周年を共に祝いたかったが、それはもう叶わない。でも、すべては神様のご計画なのだ。天国で神様から祝福を受けている会長のことを偲べば、前に進み実践を重ねる意が強くなる。

会長の功績と実践については枚挙にいとまがないので、ここでは1994年の希望館設立と支援への寄与について、会長との（主に酒盛りの場での）会話を基に記しておきたい。

当時、複雑化する子どもたちの課題と症状を見て「どんな子でも支えられる学園でありたい。専門的な支援が必要だ」と情緒障害児短期治療施設の設立を決意したそうだ。

「ところがよう水野君、これが想像以上に大変だったんだだけえ。あっちこっちいろんな人たちに会いに行つて話を聞いたし、みんなで勉強会も開いた。学びと共にこれまでの実践と照らし合わせながら【鳥取こども学園らしい情短を作る】と確信できた。それで関係機関や行政に何度も説明に行くんだけど、まあ色々

すり合わせるのが大変でなあ……わしもちーっとも譲る気無いら、相手も困ったろうなあ（笑）職員の働き方も住み込みから通勤制に変える契機となったが、そこは本当に悩んだなあ。寝る間も惜しいぐらい動きながら、こりゃえらいもんの手え付けてしまった（笑）と思っただけ、希望館作ってよかったなあ」

会長が情熱と理念を持って邁進し、そこに熱意ある児童精神科医・看護師・心理士の専門職や、法人理念に篤い保育士・指導員が集つて希望館は立ち上げられた。特色である「小舎制養育ベースの総合環境療法」「寄り添いに徹した心理治療」「全人的医療」「子ども一人一人に合わせた学級籍決定（鳥取方式）」「個別を尊重した通所部門（分校分教室）」の土台は会長が築かれたものであり、そこには子どもの尊厳を守るといふ徹底した姿勢があり、いと小さくされた人たちへの愛がある。

「わしはなあ、希望館に来た子ども達が素ん晴らしく生き活きた表情に変わっていくのを見ると、本当にうれしゅうなる。子どもも大人も、みんなよくやっとなるなあ」

会長、それはあなたが築いた土台のおかげです。

だから、子ども達、巣立っていったOB・OG、職員…希望館の全ての人たちからの感謝を。会長の魂は私たちの中で生き続ける。

あなたを偲ぶことは、希望館の道しるべ。だから偲んで前へ、偲んで前へ。

アーメン

自分と向き合い、 自分を知ること

児童指導員 下石 智枝

希望館の通所部門で勤務し2年が経ちました。通所部門は、子どもたちが家やホームから一歩外に出て、家族以外の人と関わる社会生活の場所です。そこでは、自分自身や子ども同士、大人とぶつかり合いながら、人との関わり方や集団の中でのふるまい方等を身に付けていくと思います。その過程において、子どもたちは、自分と向き合わざるを得ません。そして、そこで子どもたちと一緒に過ごす私も同様に悩み、葛藤しています。私はポーカーフェイスだとよく言われ

てきました。それは誉め言葉だったのか、皮肉だったのか分かりませんが、社会場面で喜怒哀楽を表現することに、どこか億劫になっている自分があります。そのことが、支援者として足枷になっていることも痛感しています。先輩からも「大人が素を見せないと子どもは安心できない」と都度助言を頂きます。今も自分の殻をどついたら破れるのか葛藤中です。希望館に来て子どもたちと向き合うにあたり、自分自身と向き合い、自分がどういう人間なのか考える機会ができました。それは、楽しいことばかりではなく、苦しいことの方が多いですが、自分を知ることができて良かったと感じています。今後自分を知ること、子どもたちのより良い支援に繋がっていききたいと思っています。

子どもと関わる

しらゆりホーム
保育士 白 築 駿

なぜ自分は今の仕事をしているのか。大学卒業後なんとなく受かったから、と始めた仕事ではやりがいを感じられず退

職し、子どもと関わる仕事をしてみたいという理由から鳥取こども学園でお世話になり始めたのですが果たして、ここで子どもと関わるとはどのようなことなのか、子どもと何がしたいのかということから改めて考えてみました。

ホームで子どもと関わるということは、生活を共にしていくことであり、それぞれの目標、自立に向けて一緒に歩いていくこと。将来という漠然としたものに向かつて、今、子どもたちに伝えなければならぬことは何なのかを考えて、宿題を見て、料理をして、会話をしながら、時には説教をして、たまに自分のしていることに意味があるのかと不安になることもあります。その不安がよぎることで、さらに子どもたちに今自分が出れることは何なのかと再度考えるきっかけにもなっていると思います。

そのようなことを考えつつも、ただ子どもたちと楽しい体験をたくさんしたい気持ちがあります。一緒に外で遊んだり、漫画の話をしたり、遠くへ出かけたり、フアイヤードダンスを披露したりすること、こどもたちが大人になって、あの頃あんな職員が居たなあという思い出

と一緒に作りたいです。

今の自分との関わりが、将来子どもたちに少しでも影響を与え、少しでも記憶に残っていてくれると嬉しいな、という思いが今ここで働いている理由なのだと思います。

乳児院

鳥取こども学園乳児部

日々成長中！

児童指導員 高橋 彩乃

現在乳児部では、14名の子どもたちが生活しています。泣いたり怒ったり笑ったりと、いろんな表現をしながら日々成長中です。3ホームにはそれぞれに個性と雰囲気があります。今回は、3ホームからささいな日常場面の子どもたちのエピソードを集めてみました。

「どんぐりホーム」

どんぐりホーム最年長のAくん。普段はマイペースで一人でコツコツと遊ぶの

が好きな子です。そんなAくんですが、ある日の朝同じホームのBちゃんが泣いているのを見つけ、そばに駆け寄ったかと思えば頭をよしよしと撫で、玩具箱にある玩具を一つ「どうぞ」と渡してくれました。するとさっきまで泣いていたBちゃんはここにこと笑顔になりました。

職員が「ありがとう！Bちゃんとっても喜んでるね！」と言つと、Aくんもニコニコ。

またある時は、Bちゃんが遊んでいる時にそばに来たかと思えばなにやら近くでお話を始めました。職員にはさっぱり何を話しているのかは分からず…。話が終わると二人ともニコニコ笑顔。一体何を話していたんだろう…。ただ二人が寄り添って話している姿がとってもほっこりとして職員も思わず笑顔になりました。

あんな小さかったAくんも今年度で3歳を迎えます。嬉しいような寂しいような…。これからもたくさんさんの経験を積んですくすくおおきなあれ。

(保育士 前田 明子)

「かりんホーム」

Cちゃんはいつも職員が出勤し、顔を見せると玩具やTVに集中していても職員に気づくと、ニコニコしながら寄ってきてくれ最近言えるようになった職員の名前を呼んでくれます。おいで〜と手を差し伸べるとぐとぐ歩いて近づいてきて手を伸ばす姿がとっても可愛くてほっこりました。1年前は、はいはいをして人見知りをしていたCちゃん。それがこの1年で歩けるようになり、ホームの職員の顔がわかり、名前を呼べるまでに成長しました。子どもの成長はあつという間だと改めて感じたとともに、一瞬一瞬を逃すことなく、大切に過ごしていこうと思いました。

(児童指導員 金子沙耶伽)

「くるみホーム」

今年の夏、私は担当していた子どもを里親さんの家に送り出しました。Dちゃんは生まれてから3年以上暮らした乳児院を離れ、里親さんの家に引っ越すことになりました。引っ越しの話を初めて伝えた時、Dちゃんは「いかん！ずっとい

る！」と泣きながら訴えました。

それまでは、里親さんとの交流中も笑顔だったDちゃんが、その時初めて涙を見せ、彼女のホームのみんなへの思いや子どもたちに対しての気持ちをこんなにもっているんだと気づかされたとともに、一緒に過ごしたこの3年間の重みを改めて感じました。

引っ越し当日、みんなで見送る際も、Dちゃんは何か感情をしまい込んで里親さんの車に乗り込んだように見え、私自身どこか未練が残っていました。引っ越し後はDちゃんと定期的に交流しており、ある時、乳児部に里帰りしたDちゃんに交流中里親さんのことを聞くと「だいすきーたのしいー」と楽しそうに笑顔で語っ

~~~~~

いかがでしたでしょうか。人生の中で乳幼児期はあつという間ですが、子どもにとっては愛着を形成し、言葉を覚え、人間関係を学ぶなど、その子の核となるところが作られる大切な時期と言えます。子どもたちを養育する私たちが、子どもたちに日々教えられることは多く、子どもの何気ない言動ではっと気づかされることもしばしば…。子どもたちの記憶には残っていなかったとしても、その

てくれました。様々な感情を抱きつつも里親さんと絆を築き、元気に成長していくDちゃんを誇りに思った瞬間でした。

里親さんとの出会いはDちゃんにとってかけがえのない物でした。私も子どもたちとの出会いにもっと感謝していこうと思うそんな経験でした。

(児童指導員 柿田真之介)



ポニー牧場であそんだよ

エピソードを語れる大人としてこれからも子どもたちの側で見守っている応援団の一員でありたいと強く思います。今までもこれからも、子どもたちの大切な時期に関わらせてもらっていることを心に置きながら、一人ひとりとの出会いに感謝し、子どもと向きあい過ぎていく中で、悩み迷いながらも子どもたちと一緒に自分自身も、もっともって成長していきたいと思っています。

認定こども園

## 鳥取みどり園

### ◆ひよこ組

絵本が大好きなひよこ組の子どもたち。中でも「だるまさんが」の絵本に興味津々！

「だるまさんが、どて」の文の所では体をどてと倒したり、「だるまさんがびろーん」の所では両手を上に力いっぱい伸ばしたり…。

だるまさんに変身した子どもたちの可愛い表現にはっこりする読み聞かせの時です。



### ◆りす組

「〇ちゃん」と名前を呼んだり、手をつないで一緒に歩いたり友だちとのかわりが多くなったりす組の子どもたち。



♪バスにのってゆられてる「ゴーゴー」と歌を歌って遊んでいる友だちがいると周りの友達が次々によってきてみんなでお出かけ。

みんなどこにこんなかな？

### ◆うさぎ組

うさぎ組も年間を通して食育に取り組んでいます。夏には、乳児園庭でキュウリ、オクラ、スイカを収穫し、秋には大根、人参を収穫します。8月下旬に種をまいた大根が9月下旬に沢山の芽を出し、子どもたちと一緒に間引きをしました。間引きをして小さく刻んだ大根の葉

を給食室でゆでもらい、ご飯に昆布と一緒に混ぜ、おにぎり作り。「おいしくな〜れ」と言いながら思いを込めて真剣な表情で握っていました。一口食べると「おいしい」と満面の笑顔で大満足だった子どもたちです。

野菜の苦手な子どもも自分たちで育てた野菜は格別のようです。



### ◆にじ組

戸外あそびが大好きなにじ組の子どもたち。砂場でごちそうを作っていると、また、芝生の上で元気いっぱいサッカーをしていると、大きなどんぐりを発見。嬉しくなってよく見ると小さなどんぐ

り、きりの実などいろいろな秋の実が落ちていました。木の実は子どもたちの宝物。子どもたちは両手いっぱい集めて大喜びです。

深まりゆく秋の自然の中で子どもたちは「おもしろい」を沢山見つけることと思います。



### ◆つき組

体を動かすことが大好きなつき組の子どもたち。

少し難しい遊びの設定にも「友だちとならやってみよう！」と勇気を出して挑戦し、まるで水浴びをしたように汗を

たっぷりかき、活き活きとした表情で楽しんでいきます。そして活動後は「あー！楽しかった！」と満足した笑顔に…。明日もまた楽しいこと一緒にしようね!!



### ◆ほし組

みどり園最後の運動会。「かっこいい」「この曲がいい」と子どもたちが選んだ『宇宙戦艦ヤマト』の曲でマーチングをするようになりました。初めて持つ楽器に最初は「重いよう」「肩が痛い」という声が聞かれたり、暑さで外での練習は短時間でしか出来なかったり、歩きながら演奏する難しさを感じたり…。そして迎えた本番。練習していく中で「10000点目指して」を目標としていましたが、

なんと20000点をもらう演奏ができて、子どもたちも最後までやり遂げた喜びと充実感でいっぱい表情で運動会を終えることが出来ました。



### ◆わくわく支援センター

今年は、長かったコロナの感染を恐れた生活も5類となり、マスクを外して遊びに来られる保護者の方が増えました。マスクを外しての再開は、初対面のように新鮮です。お母さんの顔を見ながら遊ぶ子どもたちも自然とかわい笑みがこぼれています。

今春鳥取に転勤で来られたお母さんが、7月に勇気を出して来てくださいま



した。玄関の扉が開いたので、「こんにちは、どうぞ いらっしゃい！」と声をかけた途端お母さんの目から涙が止まりませんでした。その日は、ポロポロ流れる涙を拭うのが精一杯でしたが、「ほっとして…」と帰られる頃に話してくださいました。その後来所されるうちにお母さん同士で話をされたり、行事にも参加されたりしながら子育てを楽しんでおられます。1人つきりでの子育てはとても大変なことです。1人で抱えないで1度わくわく子育て支援センターに来てみてください。楽しいことや素敵な出会いがありますよ。お待ちしております。(記載について、保護者の方に了解を得ています。)

自立援助ホーム  
鳥取フレンド  
鳥取スマイル  
はればれ

一緒に…



統括寮長

田村 崇

日頃より自立援助ホームの運営ならびに若者へのご支援と温かい眼差しをありがとうございます。現在、自立援助ホームでは9名の若者(鳥取フレンド3人、鳥取スマイル4人、はればれ2人)が生活しています。ホーム退居に向けてアパート自立の準備を進めている若者、仕事を探し早く自身のペースを作りたいと思っで動いている若者、今現在の職場でのステップアップを目指している若者、それぞれの若者が壁にぶつかりながらも自身のペースで自立を目指しています。また各ホームのスタッフもそれぞれの若者に寄り添いながら支援してくれています。何が正解なのか?どう伝えるべき

なのか？それぞれの若者の本音はどこにあるのだろうか？日々いろいろなことを考え悩みながら寄り添ってくれています。本当に頭が下がる思いでいっぱいです。

今年1月6日に自立援助ホーム部門内でおこなった理念研修(ひさまつの会)で、9月10日に天に召された藤野興一さん(当時理事長)にお話をいただきました。自立援助ホーム鳥取フレンドの成り立ちから、その後の国や行政との闘いと全国協議会のこと、自立援助ホームに対する思いなどをお話してくださいました。その中で「一緒に…」というキーワードが何度も出てきました。大人と若者と一緒に。職員と職員と一緒に。上司と部下と一緒に。そんなメッセージが込められていたのかなと今となって思っています。お話の最後に「この場を呼んでくれてありがとう」といっていました。わたしも仲間に入れてくれありがとうとつぶやきました。「そう話されて講演を閉じられました。

絶えず若者の側(そば)にいて、一緒に〃を実践してこられた藤野興一さん(あえてそう呼ばせていただきます)のパッション、園長や理事長になってもその思いは変わらないという思い。そういう

たものを強く感じたのを覚えています。

時は必ず流れ、時代も人も変わってきます。でもこの「一緒に〃をしっかりと受け継いで繋げていくことがわたしの使命だと思っています。まだまだ若輩で、失敗もいっぱいしており、もっともっと成長していかなければならないわたしですが、これまで以上に自立援助ホームで暮らす若者や巣立っていった若者、それを支えてくれていたスタッフや法人の職員、そしてなによりも、そんな我々を温かく支えてくださっている皆様と一緒に〃これからも自立援助ホームを盛り上げていきたいと思っています。

児童家庭支援センター

子ども家庭支援センター

「希望館」

## 自分のあり方

副所長 野田 諭

皆さんは、人と関わる時、どういうことを大切にしていますか？私は、人と

関わる仕事に就いてから、そのことについて想いを巡らせることがよくあります。なかなか言葉になりにくいなあと思いつながり過ぎていますが、過日、中国四国児童家庭支援センター協議会研修

会があり、そこで出た言葉にフィットするものがありました。それは、人のbeing(自分らしくあること)を大切にすることです。私自身は、何かを身につけさせるといっても大事ですが、目の前にいる人との温かな関係そのものが人生を生きる支えになるということを大切にしたいと思っています。それを一言で言うと、doing(すること)よりもbeing(あること)を大切にすることになるでしょう。

支援センターでは、以前から「いろいろ」というグループ療法を行っていました。そこで大切にしていることはまさにdoingよりもbeingなのです。集まってもらった子ども達に対して、大人が決めたことをして、どれだけ身についたか評価する(doining)のではなく、子どもたちが今やりたいことを聞いていき、その場で自分が楽しく過ごせる

こと(being)を大切にしています。子どもが自分らしくその集団で過ごせたかということが、そのグループが機能しているということになると考えています。

子どもたちは、1度来たら「また来たい！」と必ず言ってくれます。「このグループがあるから学校もがんばってきたよ」と言ってくれる子もいます。集団で楽しく過ごせてエネルギーももらえる場が、子どもたちが自分を肯定して生きることにつながっていくのではないかと考えています。

「いろいろ」では、一緒に過ごす大人に対してもbeingを大切にしていようと考えていて、ミーティングの中では、今日の自分の調子や、最近考えていることなどをシェアするようにしています。もちろん私自身の調子が悪いこともあったり、doingにとらわれていることもあります。いつもbeingを大切にできているわけではないのですが、「いろいろ」で活動したり、日々を過ごしていく中で、周りの人たちに自分のbeingを大切にしてもらっていると感じるものがよくあります。そういう

ときは、心がほっとして、周りに支えられていることを実感します。

私は、大人と子どもの間でも、大人同士でも、お互いのbeingを尊重しながら過ごす場の雰囲気が少しずつでも育っていくことを理想にしています。大人も子ども同じ人間です、人同士が尊重し合うことで、自分の感じていることを大切にでき、well-being(よりよく生きる)の場が広がっていきばいいなあと思っています。そんなあり方で、支援センターに相談に来てくださる方と出会い、「自分のあり方」について一緒に考えていきたいと思っています。

※家族・子育てについての悩みや、子どもに関するあらゆる相談に応じています。相談料は無料です。

#### ○電話相談

月曜日～金曜日

午前8時30分～午前0時

(緊急の場合は、時間外も24時間対応)

#### ○来所相談

開所時間 月曜日～金曜日

午前8時30分～午後5時30分

専門の相談員が対応します。



カウンセリング室

就労継続支援B型作業所

## はまむら作業所

あのね、なんじゃもんじゃの木さん…

管理者 山岡 宏樹

学園便りの季節。今年前半だけでもいろんな事があり、いつの間にか秋が来た

というのが本音の今日この頃です。我々の事業所でも、この夏の猛暑、急な天候の変化等に大変悩まされ、扇風機のフル稼働、冷房機器の追加購入、水分補給、時々休憩時にアイスクリームを食べるなど大忙しでした。一歩外に出るとそこは人が居るような温度でない時間が続き、気候の異常な変動を感じました。また、私自身はじめて新型コロナウイルスの感染で勤務できない時期もあり、完全に日中の活動停止となってしまう日々もあり、「何にもできない…」「焦る…」など不安な時間が続く時がありました。こんな時でも、年間、季節毎の作業等は事業所としてあり、でも、なかなか思うように日々の物事が進まず葛藤がたくさんあったように思います。特に、私達の事業所は、いくらかの軽作業を請け負いつつも、主に農福連携の活動を開設当初から日々実施してきたので特に今年は悩みもひとしお、日々の展開やこれからの事について体力とエネルギーを使ってきたところで、

こんな時、私は、開設時からなんじゃもんじゃの木にも相談をしています。何の話？とお思いの方もおられると思います

すが、「なんじゃもんじゃの木」とは、うちの事業所の敷地にある木犀科の古い木で、いつからあるのかわかりませんが、11年経つ今もなお、事業所の真ん中で私達を見守ってくれています。なんじゃもんじゃの木は、私達が事業所を開設する前から幾多の風雪に耐え、地域の方を見守り、私達の法人が来てからは利用者さんや職員の毎日を見守り、現在に至ります。開設時にこの木に初めてあった時は、蔓が幹全体に纏わりつき表面がボロボロになり枯れかけながらもじっと根をはり、木は「大丈夫、生きているよ。」「ここにずっといますよ。」と語りかけているようなそんな存在感でした。当時いた職員や地域の方と木の手入れをし、木は年々葉を茂らせるように復活し、私達の活動中に心地よい日陰をつくってくれたり、昆虫や鳥がくつろげる空間もつくってくれたり、生き物にも無償の愛をくれています。利用者さんに聞くと木の木陰でいろんなお話をしたり、時々木に思いをぶつけてあったりした事もあると話してくれたり、職員に聞いても、台風で木々が折れ何度か伐採を検討した時もあるが、何だか長い付き

合いの仲間にも思える存在のようで、私達の普段の一部になっている気がするな  
ど、個々に思いがあるようです。私達が  
ひととの事で悩んでいる時も、日中の活  
動でどうしたほうが良いのか悩んでいる  
時も、楽しい思い出が出来た日も、悲し  
い事があり元気がない日も、何にもでき  
ないどうしようもない時も、そこに居て  
見守り続けてくれる温かく感じるなん  
じやもんじやの木の存在。この木は、居  
場所としての事業所づくり、日中の活動  
と作業等の両立、相談できる存在など、  
私達が開設当初から目指しているケア・  
活動姿勢のヒントをそと教え続けている  
のかもしれないと思います。

文章としてまとまりはないのですが、  
明日も「おはようー!」「お疲れ様です。」  
「あんな…昨日な…」となんじやもん  
じやの木に語りかけてみよう、木をさす  
りエネルギーを貰おうかなと思っていま  
す。少し恥ずかしいけど伝えます、「な  
んじやもんじやの木さん、いつもそばに  
いてくれて、ありがとうございます。こ  
れからも私達をよろしくお願いします。」

診療所

こころの発達クリニック



精神科医

川口 孝一

「ありがとう」と  
言える「こころ」

この度の「学園だより」の私の担当欄  
は型破りの形式になりますが、希望館入  
所中の中学生Mさんが書いた短編小説を  
(ご本人の承諾を得て) 皆様にご紹介さ  
せていただきます。Mさんはいろんなタ  
イトルの小説を書いておられ、それらの  
作品はどれも秀作ですが、この度ご紹介  
する「初恋」は、この爺さん(川口)が  
不覚にも面談場面で涙してしまった作品  
です。

『初恋』

初めての恋というのは、人生で一度し  
か経験できない特別な恋心。

それが、どんな結末になろうとも笑顔

で語れる出来事として、思い出ファイル  
にしまっておけるのだろうか。

私が初めて恋をしたのは、高校三年  
生、と周りより少し遅かった。

それまでは私が恋をするだなんて思っ  
てもみなかったし、死ぬまで、いや、死  
んでも好きな人ができるだなんて思っ  
ていなかった。

けれど、私は恋におちてしまった。

別に運命的な出会いをはたしたわけ  
でも、ドラマチックな出来事があったわけ  
でもない。

ただのクラスメイト——言ってしまう  
ば、平凡な男の子を好きになった。

特別な関わりがあったわけでもなく、  
何だったらまともに会話すらした事がな  
い相手だった。

何で好きになったのか、自分でも不思  
議なくらいだった。

それでも、好きになったのだ。

そこからは、まるで呪いにかかったみ  
たいだった。

見つければ目で追い、暇があれば妄想  
し、考えればため息が出た。

でもそれは、呪いではなく、恋の魔法  
というやつであったのだろうか。

その気持ちだとすればその魔法さえも  
とけてしまっ、きっとその時にしか味わ  
えない特別な魔法。

「かっこいいから好きなんじゃない。好  
きだからかっこいいんだ。」

そんな使い古されたうさんくさい言葉  
だって、理解ができた。

いや、そんな言葉だからこそ、理解が  
できたのかもしれない。

私はずっと恋愛自体を、うさんくさい  
ものだと思っていた。

つらくなったり、苦しくなったり、そ  
れでも、幸せだったり。

そんなものの全てが、嘘だと思ってい  
た。けれど、違った。

つらくなるのも苦しくなるのも、それ  
以上の幸せを感じるのも、全てが本当  
だった。

想いが重なっていく度に、「好き」と  
いうことを実感し、少しだけ恥ずかしく  
なるのが毎日だった。

なんて想いを募らせながらも、時は過  
ぎてゆく。

何事も無く迎えた卒業式。高校生活最  
後の日。

周りは皆、笑い合ったり泣き合ったり

している。

そんな人たちをかきわけて私は彼の元へと近づいた。

そして、友人と楽しそうに話している彼の肩を、ポンポン、と叩いた。

彼は、首だけを動かしてこちらを振り向いた。

最後に、これだけは伝えようと決めた言葉がある。

「今まで、ありがとう！」  
それだけ言って、彼の元を離れた。

逃げるように少し早い足取りで歩きながら考える。

——告白なんてする気、さらさら無かった。

本当にただの一度も関わらなかった。話すこともなかった。

けれど、好きという想いを、彼は知りもしない密かな想いを抱かせてくれた事。それだけでとても嬉しかった。

だから最後に感謝の気持ちを伝えられた。

私の初めての恋。特別な恋。

「好き」という気持ちが相手に伝わらなくても、私はこの恋心を大切に、大事にしてきた。

だから、だからこそ、こんな恋だったあるのだな」と今では思う。

「…」

進めていた足を止めた。

そして、うつむきながら一人、誰にも見つからないように、クスリ、と微笑んだ。

如何でしたか？私が涙したのは、Mさんの卓越した文章表現によって描き出された「告白さえもしなかった少女の純な切ない初恋」にですが、特に「好き」という想いを抱かせてくれて、ありがとう」というところです。私だったら「この想いをどうやって相手の子に伝えようか？」相手の子は自分のことをどう思っているのだろうか？」と、そっちの方ばかりに想いはあったのではないかと思のです。しかしこの主人公の女の子は違いました。最後までベクトルは自分ではなく相手に向いていました。Mさんは「小説だから」と言いますが、私はこの主人公はMさんの投影だろうと思います（最後の「クスリ」は投影作へのMさんの照れ笑いでもあるのかなと思います）。私はそんなMさんの「こころ」

にも感動感激したのです。学園にはMさんのような繊細で感受性豊かで優しい子たちがたくさんいます。そんな子もたちと伴にあることを嬉しく思います。私も「ありがとう」で終われる人生でありたいと思います。

鳥取県里親養育包括支援事業

## 里親支援とつとり

くるくるしたひとみ  
のぞいていると

所長 遠藤 信彦

生後半年の我が子の入眠時をつぶさに見つめていると、さまざまのことを考えさせられます。ミルクをたらふく飲んで、げっぷも上手にできたので、さあさあ寝かしつけをはじめ！とこちらは意気込みますが、その目はまだらんらんと輝き、ごろごろ、もじもじとベッド内の点検・探検がはじまります。点検は空間だけにとどまらず自分のからだにも及び、よいしょよいしょとあんよを持ち上

げ、足指をしゃぶります。半径1メートルのエリアから、世界の仕組みを解き明かしているのでしょうか、何につけてもこの探究心には頭が下がります。

制止するのは野暮で、気が済むまで、なすがままに任せます。一段落したのをみはからってセンターポジションに戻し、てんてんからだを優しく叩きます。このてんてんは、胎内にいた頃のお母さんの心音の再現なのだそうです。気が安らぐにつれ、あーとかうーとか、あどけない声で何かをつぶやきながらおしゃぶりを吸い、毛布を握りしめ、くるまります。おさるであった原始のなごりで、母さるから落ちないようにしがみつき、食いつばぐれないようにお乳を含んでいるのでしょうか。仕上げに、ほったたを毛布にこすりつけて、眠りにつきます。

このとき「くるしゅつない」と言わんばかりに一瞬、満面の笑みをみせるので、思わず「かわいいね」ということばが漏れ出ます。ことばの意味はまだ分からずとも、声音と抑揚でメッセージが伝わると、乳児は、大事にされていると感じてほほえみ、養育者は、またそのさま

が愛らしくてことばをかけるという、しあわせなスパイラルがあるそうです。

寝かしつけは必ずしもスムーズに行くとは限らず、時間がかかったり、大声で泣きわめかれたりします。その声は、さも出来が悪い養育者だと訴えているように聞こえます。じんわりたんわりそれにこらえてやっと寝ついてくれたあと、「たいへんでしたね」とねぎらいあってようやく、大仕事をなし終えたと感じます。「たいへんでしたね、でもかわいかったね」と言いあえるパートナーやチームメイト、共感し、いたわってくれる人が、誰か一人でもいなければ、「イラッとする！かわいくない！もうしらん！」という思いにとらわれてしまうことも、想像にかたくありません。

目が覚めればまた熱心な、ひとり探検隊が出発します。すべてのものが珍しく、何を見ても何をやっても嬉しい、くるくるしたひとみをのぞいていると、伸びやかな力をひしひしと感じます。自由と安全・安心が保証された場所でエネルギーをたくわえ、世界の探究に出かけ、できること、わかることが増え、自信を獲得していくという、一生を通じるとい

なみが早くも展開されています。

これまでさんざん里親さんに講義してきましたが、今、人の育ちを一から学んでいます。

#### 事業所内保育施設

### とりっころんど

#### われらすまいる応援団

チーム長 中村 秀子

「(ピンポン)」「○○ちゃん、おはようー！」とりっころんどの1日の始まりです。在園児は現在6名。0〜2歳児の元気いっぱい、わんぱく盛りの子ども達です。最年少のAちゃんは1歳3ヶ月。好奇心旺盛で自ら友だちにかかわっています。1歳児のBちゃんは手遊びや歌が大好き。曲が流れるとノリノリで体を動かして楽しんでます。

2歳児のCくんは恐竜博士！毎日、図鑑を開いては難しい恐竜の名前を言い当て、恐竜になりきって遊んでいます。Dちゃんは女の子。おしゃべり上手で友だ

ちの世話を焼いています。気分は保育士さんです。Eくん、Fくんは乗り物好き。「はたらくくるま」の歌をいつも大合唱しています。その上「いーやだ〜」と只今、第一反抗期の真っ最中。皆、個性派揃いで毎日がとても賑やかです。

さて、話は戻りますが登園時、保育士は子どもの表情や態度からその日の心身の健康状態を判断します。検温、顔色、食欲はもとより、睡眠時間や機嫌(心の状態)等、保護者の方と情報を共有して一人ひとりに応じた保育体制を検討します。体調不良で集団活動が難しいと考えた場合は個別でゆっくりと過ごせる環境を整えます。時には看護師と連携して病後保育に切り替える等、柔軟に職員配置を行い、子どもにとって安心、安全な環境作りを心がけています。そんな毎日の積み重ねによるものでしょうか。近頃は病気で休む子どもはほとんどなく皆、よく食べ、よく遊び、よく眠り…。益々、たくましく成長していく姿に職員は圧倒されています。

日々、働く保護者に代わり子どもの保育を行い、生命の保持と子どもの育ちを保障していくことは保育所の社会的意

義、役割であることは言うまでもありません。と同時に今、目の前にいる子どもにしっかりと向き合い、まるごと受け止めること。保護者のニーズに寄り添いながら必要な支援や保育を行っていくこと。そして、時には保護者と同じ立ち位置で不安や悩みを共有し、お互いに出来ることを考え、実践していくことがとりっころんどにこそ求められている実情だと考えます。子どもの生活を24時間で捉え、保育士、看護師、栄養士等、専門性を生かした育児支援を行うと共に保護者を励まし、一緒に子育てしていく協力者Ⅱ応援団としてこれからも保護者や地域の方々の身近な存在であり続けたいと願っています。



当学園事業へのご寄付  
後援会へのご加入に  
感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、下記のとおりです。  
心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (R 5 . 5 . 1 ~ 10.31)

敬称略

| 氏 名             | 氏 名               | 氏 名             | 氏 名               |
|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| 谷 島 伸 二         | 福 寿 み ど り         | 武 安 泰 雄         | 株式会社 ヤマネ機材        |
| 前 田 悦 子         | 広 谷 笑 子           | 竹 歳 保 子         | 株式会社 メモワールイナバ     |
| 渡 邊 健 次         | 東 邦 子             | 竹 下 努           | 株式会社 保健企画         |
| 若 桜 柿 坂 医 院     | 半 田 卓 実           | 竹 内 一 昭         | ひ ま わ り 薬 局       |
| 龍 福 寺           | パ ル ス 電 工 (有)     | 大 雲 院           | 株 式 会 社 戸 信       |
| 吉 田 由 美 子       | 医 療 法 人 三 木 眼 科   | 曹 洞 宗 吉 成 寺 住 職 | 株式会社 信勝丸漁業        |
| 湯 村 正 仁         | 原 井 た き 代         | 勢 木 宇 太 郎       | 株 式 会 社 コ タ ニ     |
| (有) 山 根 木 型 制 作 | 原 雅 子             | 砂 川 晋 治、 真 理    | 株式会社 グリーン・キャピタル   |
| (有) 柏 木 電 器     | は や し 社 会 保 険     | 杉 森 忠 篤         | 株式会社 アベ鳥取堂        |
| 有限会社 ウコン自動車     | 労 務 士 事 務 所 則     | 杉 村 英 子         | 株 式 会 社 清 水       |
| 有限会社 岸田ガラス店     | 濱 本 義 則           | 白 井 道 子         | 株 式 会 社 enishi- 縁 |
| (有) 岩 田 小 型 運 送 | 濱 本 五 十 鈴         | 正 林 督 章         | 金 森 千 恵 子         |
| 山 本 智 丈         | 花 木 正 史           | 清 水 雅 彦         | 加 藤 礼 二           |
| 山 根 健 太 郎       | 畑 山 博 史           | 柴 田 隆 嗣         | 柏 女 靈 峰           |
| 山 田 敏 明         | 秦 有 希             | 柴 田 和 仁         | 小 長 井 賀 與         |
| 山 下 孝 子         | 日 海 通 信 工 業 (株)   | 山陰酸素工業株式会社      | 岡 本 博 和           |
| 山 口 ひ ろ み       | 西 山 裕 子           | 酒 巻 佐 代 子       | 岡 本 智 鶴 子         |
| 安 本 良 栄 子       | 西 尾 英 樹           | 西伯更生保護女性会       | 岡 田 公 則           |
| 持 末 邦 子         | 難 波 幸 矢           | 齋 藤 智 子         | 大 西 雅 廣           |
| 村 中 良 子         | 中 嶋 哲 一           | 齋 藤 禎 一         | 江 谷 孝 明           |
| 村 上 収 子         | 中 尾 文 裕           | 齋 藤 明 彦         | 宇 佐 美 幸 子         |
| 村 上 悦 子         | 中 尾 廣 太 郎         | 米 谷 食 品 セ ン タ ー | 上 嶋 純 子           |
| み な み 歯 科 医 院   | 鳥 山 玲 子           | 小 竹 原 寛         | 岩 田 美 代 子         |
| 溝 口 好 美         | 鳥取南更生保護女性会        | 高 力 房 枝         | 医療法人社団 萩原医院       |
| 水野商事株式会社        | 鳥取保護区保護司会         | 広 徳 寺           | 医 療 法 人 さ と に     |
| 水 野 浩 伸         | 鳥 取 市 仏 教 会       | 光 田 澄 子         | 田 園 ク リ ニ ッ ク     |
| 三 木 康 二         | 鳥 取 医 療 器 株 式 会 社 | 蔵 本 美 知 子       | 医 療 法 人 き む ら     |
| 美 川 寛 亮         | 鳥 取 因 幡 組         | 国 富 一 郎         | 耳 鼻 咽 喉 科 医 院     |
| 眞 鍋 裕 明         | 東 部 医 師 会 会 員 有 志 | 國 竹 心 み こ       | 伊 藤 文 代 子         |
| 松 永 陽 隆 夫       | 常 田 享 詳 生         | 久 坂 七 裕         | 磯 田 教 子           |
| 松 永 隆 祥 子       | 常 井 幹 和 子         | 木 本 村 和 子       | 井 須 尚 紀           |
| 巻 田 豊 子         | 廳 村 利 江 子         | 木 村 和 子         | いしど歯科クリニック        |
| 前 田 洋 宏 子       | 田 村 明 子           | 木 下 室 尚 育 子     | 石 谷 充             |
| 前 田 田 俊 和 一     | タニグチ・ヘア・サロン       | 北 喜 多 寿 美 子     | 石 田 晤 玲           |
| 古 川 潤 大 学 芳 臣   | 谷 口 香 与 子         | 喜 多 地 み つ 太 男 子 | 池 田 正 昭           |
| 佛 教 原 井 重 明     | 谷 口 勝 由 紀 恵 子     | 河 妹 宏 正 男 子     | 阿 部 富 美 子         |
| 藤 井 井 田 眞       | 田 中 耕 嘉 鶴 子       | 川 口 本 良 夏 子     | 浅 井 富 美 子         |
|                 | 田 中 和 子           | 川 口 本 良 夏 子     | 秋 崎 る り 子         |
|                 | 田 中 和 子           | 川 口 本 良 夏 子     | rococo HATAYAMA   |
|                 | 田 中 和 子           | 川 口 本 良 夏 子     | 米 子 信 愛 鍼 治 療 院   |
|                 | 田 中 和 子           | 川 口 本 良 夏 子     | 天 徳 寺 子           |
|                 | 田 中 和 子           | 川 口 本 良 夏 子     | 河 田 瑛 子           |

| 氏 名                                                | 氏 名                                              | 氏 名                                                      | 氏 名                                                            |
|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 株式会社 岩田兼商店<br>河 本 充 弘<br>社 会 福 祉 法 人<br>鳥取市社会福祉協議会 | 総合印刷出版株式会社<br>代表取締役 田村 仁美<br>影 久 眞 智子<br>小 原 知 子 | 鳥取東更生保護女性会<br>上 山 弘 子<br>グ ル ー プ 鳥<br>松 下 暢 子<br>斎 藤 泰 暢 | 浅 野 和 子<br>社会福祉法人 あすなろ会<br>鳥取東更生保護女性会<br>磯 田 隆 明<br>リセット 溝口 智子 |

物 品 寄 付 者 (R 5. 5. 1 ~ 10.31)

敬称略

| 氏 名                                                                                                                                                                                      | 氏 名                                                                                                                                                               | 氏 名                                                                                                                                            | 氏 名                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sassy angel<br>U F O 秋 里<br>U F O 扇 町<br>U F O 叶<br>U F O 吉 方<br>池 尾 真 理<br>上 根 千 恵 子<br>エイデンアンドアネイ株式会社<br>江 崎 グ リ コ (株)<br>第 1 S 部 (冷 凍)<br>金 森 興 太 郎<br>金 田 あ り の み 農 園<br>株 式 会 社 準 組 | 株式会社 ヤマネ機材<br>公文式立川五丁目<br>教室 山田 悦子<br>齊 藤 里 依<br>山 王 振 興 協 議 会<br>三和商事株式会社 松村 有格<br>(星野 誠 様より寄付)<br>信 夫 君 代<br>下田梨園 相崎 伸子<br>曾 我 咲 斗<br>大 雲 院<br>大 樹 寺<br>田 中 仲 雄 | 谷 口 隆 之<br>谷 本 皮 小 四 郎<br>手 井 倫 子<br>土 井 子<br>徳 村 敦 司<br>中 原 律 雄<br>萩 本 真 紀<br>橋 昭 子<br>林 パ ン ド ラ の 男<br>箱 明<br>福 田 光 井<br>ベビーマッサージ 上<br>本 光 寺 | 前 場 大 輔<br>松 下 永 暢 子<br>松 無 森 名 夫<br>門 司 田 氏<br>安 龍 司 本 優<br>渡 邊 岩 徹<br>赤 木 曾 子<br>加 藤 ま ど<br>平 井 貴 代<br>長 石 和 美<br>恵 |

じょうむのじぶやき

『神の人』の志を受け継ぐ



常務理事

山 本 隆 史 記

九月一〇日に召天いたしました当法人  
会長 藤野興一の前夜式・告別式に際し、  
ご多忙中にもかかわらず延べ八〇〇名を  
超える方々に参列いただきましたこと、  
また多くの御厚志を頂戴いたしましたこ  
と、心より御礼申し上げます。

皆様ご存じのとおり、藤野興一は、鳥  
取子ども学園初代園長 藤野武夫と鳥取  
みどり園初代園長 藤野とりの長男とし  
て鳥取育児院に生まれ、「学園生まれ学  
園育ち」で、まさしく学園が「家」であ  
りました。そのような藤野を神様の元に  
送るにあたり、私も役員は、藤野を「学  
園（Ⅱ家）から送り出そう」と考え、全  
職員がこのことに賛同してくれました。

前夜式・告別式までの二日間、藤野を  
地域交流ホームに安置いたしました。計報  
を聞いた多くの学園出身者、そして多くの  
学園の子どもたちが藤野との別れの時を  
ゆつくりと過ごすことができました。

前夜式・告別式は日本基督教団鳥取教  
会の横山順一牧師の司式により、学園体

育館にて執り行いました。体育館だけで  
は足らず、本館事務所と教育棟をオンラ  
インで中継し、多くの方々と共に送るこ  
とができました。

告別式の中で横山先生が、七月九日に  
執り行われた牧師就任式での同志社大学  
教授で牧師の越川宏英先生の説教のお話  
『神の人よ』の内容をお話されました。  
『神の人』は三つの共通項があり、まず  
『叱る人』。失敗や躓きを厳しく叱責する  
のではなく「君はどう生きるのかな」と  
現在の自分が質されるような誰も言って  
くれない本質的な問いかけをやりわりと  
してくれる人。決して排除せず、きちん  
と受け止め、「あなたは大丈夫」とそこ  
から何が始まるような『包容力を持った  
人』。そして躓きや失敗から、再び力を  
与えられて歩み出せるよう、背中を押し  
出してくれ、「一緒に歩んでくれる人」  
だと話されました。そして昨年一二月発  
行学園だより第五二号の『興一じっちゃ  
んのつぶやき』を読まれ、藤野が市井の  
中に生きる『神の人』であつたと強く感  
じたとおっしゃってくださいました。ま  
さに『神の人』とは、学園理念の『愛』  
を具現化することだと改めて感じた次第  
です。

私たちは、「子どもと共に生きるとは  
どういうことであるのか」「人権を守る  
ということはいかなることなのか」「信  
じるということは何であるか」、そし  
て「最も大いなる力は愛である」という

ことを藤野から示され、託されました。その託されたバトンをさらに確固たるものとしていくためにも、皆様のご理解とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、告別式では学園出身者一名が藤野に向けて弔辞を捧げてくださいました。今回はその一人で、現在法人職員でもある岡垣麻美の弔辞挨拶を掲載いたします。



『藤野興一園長先生』

園長先生、分かりますか？麻美です。私の中ではいつまでも園長先生なのですが、私が学園で働いている間に園長先生の肩書が、「理事長」とか、「会長」とかいろいろ変わっていき、そのたびに呼びにくいなと思っていました。なので今日も園長先生と呼ばせてくださいな。

私が子どものころの園長先生について思い出すことは、「夕拝での話が長すぎる」ことです。今だから言えるけど、話が長過ぎて、内容は今一つ理解できませんでした。そう思っていたのは、たぶん私だけではないと思います。でも出たくないと思ったことは無かったです。

とにかく一生懸命に大切なことを伝えようとしていることは、私にも伝わっていましたよ。そんな園長先生のもとで育ったからか、私も時を経てありがたいことに学園で働かせてもらうようになりました。

子どものころは園長先生の考えや思い、存在の大きさを知ることが無かったです。あの園長室にいたのが当たり前の人でした。学園で過ごしている間は自分のことで精一杯で、周りの大人のことを考える余裕なんてなかったのだと思います。

ですから職員となつてから、学園の子ども達が園長先生に守られていることを知り、私も守ってもらっていたことに気づき、学園に恩返ししたいと強く願うようになりました。そのような願いを持って学園で働き続けたら、園長先生のすごさ・偉大さを改めて知ることになりました。

常に、いと小さくされた人たち、悲しい思いをしている子ども達のことを一番に考えておられましたね。子どもを子ども扱いしないで、学園の理念や愛につい

て一生懸命お話される姿は格好いいなと思っていました。

職員の悩みや焦りが大きい会議などでは、必ず子どもが感じている悲しみやつらさを分かり易く教えてくださり、そのうえでアドバイスしてくれました。いつも子ども達のことを考えている園長先生にしかできないことなのだと思います。

そして形式やパターンにとらわれず、大胆で温かくて優しい方法を実行されました。誰も思いつかないような方法や、無茶ではないかと思うことも、「子どものために」と、強い信念と実行力で達成していく姿には恐れすら感じるくらいでした。

学園の子ども達だけでなく、全国の施設で生活する子どもたちの幸せに目を向けて、制度の改善に取り組み、休む間もなく全国を飛び回る姿に驚きました。子どもの時は分からなかったけど、本当にすごい人なのだと心から尊敬しました。

園長先生、覚えていますか？私が「そのエネルギーはどこから来るのですか？」と尋ねたことを。

その時、園長先生は「わしの根源には怒りがある。子どもを理不尽に悲しませる親や大人への怒りだ」とおっしゃいました。それは私自身の感情と重なるものがありました。

そして、その怒りを根源としたエネルギー

ギーを愛に変えて、どんな子どもどんな大人も遠ざけたり切り捨てたりすることなく、未来に向けてひたすらに費やすことの尊さ、決してあきらめない強さを学びました。悲しみや悔しさの中にあっても未来を見つめ描くことを大切にすることを教えてもらいました。

園長先生とお話ができなくなつてから、仕事で迷ったとき行き詰まったときに「園長先生なら何て言うだろう？どうするだろう？」と想像する私がいいます。そのたびに園長先生の魂は私の中に生き続けているのだと思うのです。私だけでなく学園の子ども達、OB・OG、職員などすべての仲間たちの中で生き続けると思います。園長先生の魂と共に、子ども達が学園に居てよかったと思ってもらえるように、一人一人の心を合わせて、知恵を出し合つて、未来に向けて歩みたいと強く思います。

本当はお元氣だったところに、言おう言おうと思っていた私の気持ちです。伝えるのが遅くなつてごめんなさい。

子どものころから今日まで、本当に長い間、たくさんたくさんお世話になりました。子ども達と学園のための全身全霊の働き、本当におつかれさまでした。

天国では少しゆつくり休みながら、学園のみんなを見守ってください。本当にありがとうございました。

## 法人本部よりお知らせ

## 鳥取こども学園クリスマス祝会について

例年12月に開催しております「鳥取こども学園クリスマス祝会」は今年度も引き続き、参集形式での開催は中止することになりました。昨年同様、規模を縮小して学園内だけのリモート祝会とさせていただきます。

参加を予定して下さっていた皆様、楽しみにしてくださっていた皆様には、誠に申し訳ございませんが、ご理解いただきますようお願いいたします。

## 学園OB会開催のお知らせ

新型コロナウイルス感染症予防のため、昨年度まで中止としておりました冬のOB会を2024年1月2日(火)18:00~鳥取こども学園希望館教育棟で開催いたします。

OB・OGの皆様、是非お越しください。

## 社会福祉法人鳥取こども学園は、様々なツールで情報発信をしています。

- (1) 法人ホームページ <https://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>
  - (2) 鳥取みどり園ホームページ <https://midorien.kodomogakuen.net>
  - (3) facebook ① 法人 facebook <https://www.facebook.com/toriko01>  
② 認定こども園 鳥取みどり園 <https://www.facebook.com/tottorimidorien>  
③ 事業所内保育施設 とりっころんど <https://www.facebook.com/torikkoland1941>
  - (4) note [https://note.com/tottori\\_kodomo](https://note.com/tottori_kodomo)
- 法人、施設、事業所の様々な情報をこの3つのツールをリンクさせながらお伝えしておりますので、是非ご覧ください。

法人  
facebook

法人HP

法人  
note

## オンライン寄付募集サービスについて

- (1) 『Syncable』  
<https://syncable.biz/associate/toriko01/>
- (2) ブランド品買取サービス「ブランディア」と寄付プラットフォーム「Syncable」が共同で運営するBrandPledge (ブランドプレッジ) のページも用意しております。送られてくるダンボールに洋服やブランド品を詰めて送り返すと査定額からご寄付いただけます。  
<https://brand-pledge.jp/associate/toriko01>

その他、詳しくは『鳥取こども学園のご支援・ご寄付をお願いしております』ページをご覧ください。(ページ上部に様々なご寄付の方法を掲載しております)

<https://tottorikodomogakuen.amebaownd.com/>

ご寄付と併せて、facebook や twitter のアカウントをお持ちの皆様は是非「シェア」していただくとありがたいです。

私たち社会福祉法人鳥取こども学園がさらに歩みを続け、私たちの施設で出会った子どもたち、これから出会う子どもたちへの途切れることのない応援とご寄付をお願いいたします。

法人 Syncable  
サイト鳥取こども学園のご支援・ご寄付を  
お願いしておりますサイト法人 BrandPledge  
サイト

## ●銀行口座へのご寄付は下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取こども学園内  
TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242  
代表メールアドレス：toriko@tottorikodomogakuen.or.jp

振込口座：郵便振替 01490-9-9106

鳥取銀行本店営業部

普通預金 7645611

山陰合同銀行鳥取営業部

普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 藤野 謙一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会費のどちらかに○をしてご入金ください。

また、銀行振込の際は領収書発行のため、お名前・ご住所をお知らせください。

## ●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部

普通預金 0405970

口座名義：鳥取こども学園後援会

会長 村上 亜由美

## 【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発行しています。同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考慮のことですので、ご理解いただきますようお願い致します。今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。